

令和7年12月18日

釜石市議会議長 千葉 榮 様

## 行政視察報告書

令和クラブによる会派行政視察を下記の通り実施しましたので、ご報告致します。

### 記

#### 1. 視察日程:

令和7年11月13日(木) ～ 令和7年11月15日(土)

#### 2. 視察訪問先 :

佐渡市議会 〒952-1292 新潟県佐渡市千種 232 番地

#### 3. 視察項目:

- 1)、新潟県佐渡市 ①佐渡金山の世界遺産の登録から今後の活用について
- 2)、新潟県相川市 ①きらりうむ佐渡 佐渡金銀山についての情報を発信する  
メインガイダンス施設の視察
- ②世界遺産「佐渡島の金山」の視察

#### 4. 参加者 :

菊池 秀明、高橋 松一

#### 5. 視察先対応者

佐渡市議会 議長 金田 淳一

佐渡市議会事務局 庶務係 係長 佐藤 由加里

佐渡市役所 観光文化スポーツ部観光推進課 課長 畠山 和義

佐渡市役所 観光文化スポーツ部世界遺産課 課長補佐 宇佐美 亮

## 佐渡市視察報告書

### 1 視察の目的

本視察は、新潟県佐渡市における佐渡金山の世界遺産登録に至る経過と登録された後の対応の取組状況について、把握し、釜石市における地域観光振興及び持続可能な観光施策の構築に資することを目的として実施したものである。

### 2 佐渡市の概要と世界産登録とその後の状況

#### (1) 地勢・観光資源

島面積 約 855km<sup>2</sup>、海岸線 約 280km 人口約 47.166 人(2025/8/31 現在)  
日本海側では最大の離島で、平成 16 年 3 月島内 10 市町村が合併し「佐渡市」が誕生する。

島外から流入した人、モノ・文化が佐渡の文化を形成し、世界農業遺産・日本ジオパークなど豊かな自然環境が残る。現在は「佐渡島の金山」が世界遺産に登録。

有する観光地は(宿根木、たらい舟、琴浦洞窟、尖閣湾揚島遊園、北沢浮遊選鉱場跡、史跡佐渡金山、大佐渡スカイライン、佐渡の銘酒、おけさ踊り、トキの森公園等)。

・ 佐渡島のアクセス面は新潟港からジェットホイルに乗り約 1 時間(フェリーは 2 時間 30 分)で行くことができる。

#### (2) 世界遺産登録への取組み

佐渡島で金銀が算出した背景は、島の原型となる火山活動で豊富な金銀鉱床(堆積砂金鉱床・熱水性鉱脈鉱床)が形成され、火山活動で生んだモノは金銀鉱床だけではなく、多様な石材をもたらしたことから、1997 年に地元民間団体のより世界遺産登録開始された。

- ① 閉山・休山により、記憶が薄れ、山野に埋もれ、朽ち果てる
- ② 佐渡の大事な歴史を物語るものが無くなる
- ③ 佐渡らしさが失われる

以上から世界遺産登録に向けた活動を開始する。

#### (3) 世界遺産登録に向けた佐渡市の取組み

- ① 鉱山に関する遺跡や建物、資材の調査
- ② 資産の価値付けと国文化財への指定・選定
- ③ 国文化財の保存・修理のための計画書策定
- ④ 観保全のための緩衝地帯の設定
- ⑤ 推薦書原案の作成(新潟県共同)

- ⑥ 普及啓発や情報発信、来訪者受け入れの対策
- (4) 世界遺産登録に向け鉱山関係の調査が活発化
- ① 分布・測量調査は、各鉱山遺跡、上相川地区、上寺町地区、坑道探査
  - ② 発掘調査は、鶴子銀山代官屋敷跡、鶴子荒町遺跡、金子勘三郎家
  - ③ 資料調査は、鉱山絵巻、絵図、古文書、鉱山図面
  - ④ 建物調査は、近代遺跡(鉱山施設)、金子勘三郎家
- (5) 世界遺産登録までの経過
- ① 1997年 民間団体による運動開始
  - ② 2006年 新潟県と佐渡市の連携による取組み開始
  - ③ 2010年 金を中心とする佐渡金山の遺産群の名称でユネスコ世界遺産暫定リストに記載
  - ④ 2015年 国へ推薦書原案を提出(2021年まで5回)
  - ⑤ 2021年 国の文化審議会において国内推薦候補に選定
  - ⑥ 2022年 政府がユネスコへ推薦することを表明
  - ⑦ 2023年 推薦書再提出、イコモス現地調査
    - ・ 構成資産より北沢地区を外す → 構成資産より除外
    - ・ 構成資産「相川鶴子金銀山」の緩衝地帯を沖合に拡張させる  
→ 市景観計画の改定による範囲拡大
    - ・ 商業採掘を再開しない表明をする → 商業権者より表明書を提出
  - ⑧ 2024年7月27日 インド・ニューデリーで開催されたユネスコ世界遺産委員会において世界遺産一覧表への「記載」が決議される。
- (6) 世界文化遺産「佐渡島の金山」の価値
- 世界の他の地域において、採鉱等の機械化が進んだ時代に、高度な手工業による採鉱と製錬技術を継続したアジアにおける他に類を見ない事例である。
- ① 鉱山技術
    - ・ 新たな技術導入(高品質の技術、専門化した作業工程 経営の効率化)
  - ② 人・物資が全国から
    - ・ 文化の流入(鉱山由来の文化)
- (7) 世界遺産登録後の文化財の保存と活用
- ① 守る
    - ・ 保存のための整備や修理
  - ② 伝える
    - ・ 次世代への教育活動、各種媒体での情報発信、イベントなどのPR、  
関係鉱山との連携

- ③ 高める ・調査及び調査成果に基づく情報更新、現地受入れ態勢の充実、整備後の公開活用

(8) 世界遺産登録後の状況

- ① 佐渡島の認知度向上
- ② 観光客数が増加
- |            |            |     |        |
|------------|------------|-----|--------|
| ・観光入込み数    | 令和6年1月～12月 | 前年比 | 約 106% |
| ・インバンド入込み数 | 令和6年1月～12月 | 前年比 | 約 75%  |
- ③ 宿泊施設の一部で、キャンセル待ちが発生
- ④ お盆時期に、一部飲食店で行列が発生
- ⑤ オーバーツーリズムは特に情報なし

(9) 世界遺産登録後の課題

- ① 資産の保存と活用に向けた整備事業の継続
- ・人材、財源の確保
- ② 資産の保存と観光との両立
- ・リピータの確保、宿泊施設、二次交通、インバンド対策、屋久島(自然遺産)の取組みなど

(10) 世界遺産登録後の展望

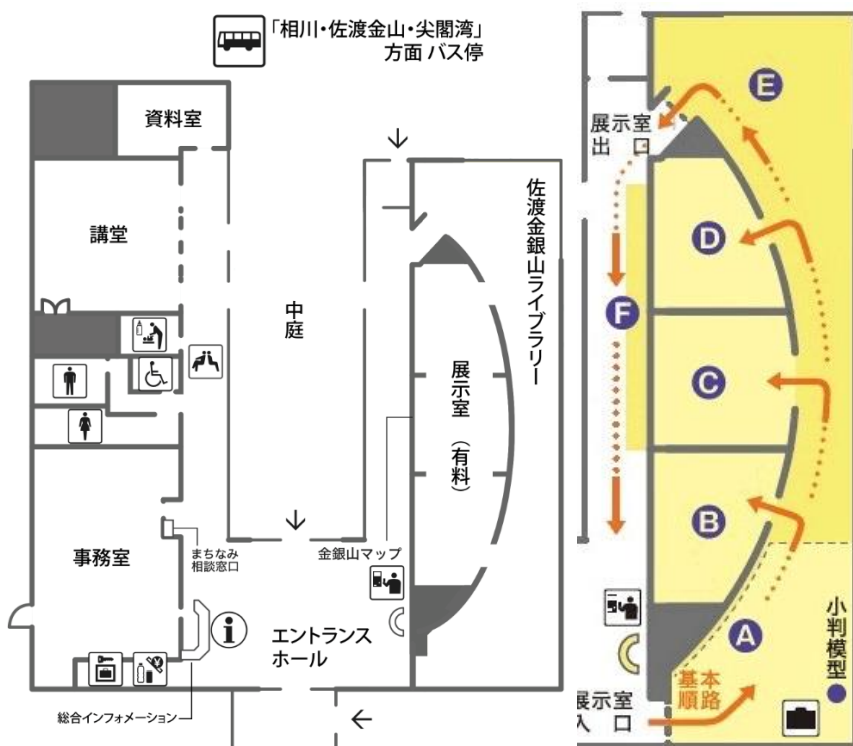
- ① 「佐渡島の金山」をきっかけに来島された方に、金山以外の歴史や文化、自然の中でノアクティビティ、多様な食を紹介して、佐渡ファン・リピーター増加へ
- ② 新潟県全体への波及へ、新潟市、上越市、小千谷市などへ
- ・「佐渡島の金山」をフックとしながら近隣自治体の魅力を国内外に発進することで全面的な誘客を行う
- ③ 佐渡の歴史や文化を物語るうえで欠かすことの出来ない資産です
- ④ 世界文化遺産は登録して終わりではない
- ⑤ 構成資産の保存や活用を図り、次世代に継承していくために様々な取組みを継続していく必要がある。



### 3 きらりうむ佐渡の視察について

きらりうむ佐渡は、佐渡金銀山の概要が分かり、現地見学がより分かり易くなった。佐渡市では、平成 31 年 4 月 20 日に佐渡金銀山の玄関口として、現地を訪れるための情報発信拠点となることを目指してオープンする。

佐渡金銀山ガイド施設:きらりうむ佐渡



#### 佐渡金銀山ライブラリー

A 位置は、豊穰の島 佐渡:奉行が見た「こがねの島」

江戸時代初期に本格的な開発が進められ、採掘された金や銀が徳川幕府の財政を支えました。この重要な管轄地を治めるために江戸から派遣されたのが、佐渡奉行。新奉行に任命され、志をもって赴任した佐渡奉行は、佐渡金銀山の実状を把握すべく、着任早々に現地の視察へ向かいます。観覧者の方々には、奉行と同じ目線で、映像で学習する。

B 位置は、大流し:山を掘り崩す砂金採り

西三川砂金山では山の地層に含まれる砂金を採るために「大流し」という技術が使われました。映像では、大流しを行う作業の様子をプロジェクションマッピングを使ってダイナミックに紹介。スクリーンの手前にある模型は西三川砂金山の笹川十八枚村をイメージし、壁面のスクリーンで砂金を採る再現映像が映し出される。

### C 位置は、見えない金を取り出す:江戸時代の相川金銀山

相川金銀山は、鶴子銀山の山師によって本格的な開発がはじまりました。映像は、視察に来たお役人になった気分で、各作業場の責任者から作業内容を紹介される設定でシナリオが進行。金銀鉱石の採掘から小判づくりまで一貫して行っていた相川金銀山の特徴を紹介される。

### D 位置は、近代鉱山の幕開け:佐渡鉱山誕生

相川金銀山は、明治時代にもたらされた西洋の鉱山技術により、近代的な「佐渡鉱山」へと生まれ変わりました。江戸時代とは比較にならない大量生産を実現した昭和10年代の「佐渡鉱山」の様子を壁面に広がるレリーフとプロジェクションマッピング映像で紹介される。

### E 位置は、佐渡金銀山ライブラリー

佐渡金銀山に関する書籍を閲覧したり、デジタルアーカイブで資料情報を検索できます。重要文化財の松榮家住宅など、歴史的な建物を見ながら、ちょっと一息できるスペースがある。

### F 金銀山ガイドマップ



おすすめ散策コースの紹介

#### 4 世界遺産「佐渡島の金山」の視察について

佐渡の金銀山開発は 16 世紀なかばから本格化しました。江戸時代には日本最大の金銀山として世界有数の産出量を誇り、幕府の財政を支えました。

佐渡には金銀山を目当てに全国各地から大勢の人が集まり、最盛期には約 5 万人もの人が暮らした鉱山都市・相川が誕生しました。



(1) 佐渡金山案内地図



## (2) 佐渡金山

世界文化遺産「佐渡島の金山」の構成資産であり、1601年から1989年まで388年間採掘を続けた鉱山跡。

実際の江戸時代の手掘り坑道に電動ロボットで当時の様子が忠実に再現されている。また、金山を象徴する手掘り採掘跡「道遊の割戸」は圧巻であり、宗太府抗と道遊抗の2つのコースに分かれている。

### ① 宗太府抗 特徴

- ・江戸時代の初期に開削された手掘り坑道
- ・江戸時代の採掘風景を人形や音声で紹介されている
- ・手掘りの坑道なので、坑道内はボコボコしていた
- ・全長 400m。所要時間 30 分
  - ・坑道は大型で、江戸時代の採掘の特徴である『将棋の駒形』の坑道、斜坑、小型の探索坑道、空気を入れる為の煙穴などが数多く残されています。
  - ・見学できる距離自体は短めですが、想像以上に奥行きがあり、見所がたくさんありました

### ② 道遊抗 特徴

- ・明治に開削された機械彫りの坑道
- ・坑道、トロック、機会工場などの設備を見学できる
- ・機械彫り坑道なので、とても綺麗だった
- ・道遊の割戸という露頭跡も見学することができる
- ・全長 1.7m。所要時間 40 分
- ・機械彫りの坑道なので、宗太夫抗と比べるとはるかに綺麗でした。
- ・技術の進歩を感じることもできるのが、佐渡金山の魅力である。



## 5 世界遺産「佐渡島の金山」の視察の所感について

今回の佐渡市視察では、世界遺産登録とその後のその活用および、観光政策について、分かり易い資料を準備していただき、説明を受け有意義であった。

特に、世界遺産登録に向けた苦労話の中では、当初、各地域での説明会で、世界遺産登録についての関心が無く、出席者が少ない状況が続いたが、根気よく、登録に向けた佐渡市の取組みを示し説明を行った結果、徐々に参加者が増加するようになった。釜石市は、市民が登録時に関わったどうか、余り理解しない中で進んだように感じている。

登録するための鉱山に係る遺跡や建物、資材の調査を、事前の準備に時間を掛け充分に行っている、また、当市は現在の総合計画の中で、発掘調査を続け計画であり、登録時の調査が行われていたのか疑問が残った。

世界遺産を巡るための、専用のバス路線はない、ゆっくり回る時に路線バスを利用しているようである、佐渡市役所をタクシーで移動し降車時に、職員から「タクシーが少ないので次も予約しなければ、来るのに時間が掛る」とのことで、世界遺産の視察は、タクシーを利用することになり、当市と同じ交通事情の問題を抱えていることが分った。

世界遺産「佐渡の金山」を視察するときに、タクシー運転士さんが、宗太府抗から道遊抗まで、1時間以上にわたり、ガイドをしながら案内をしていただき、良く理解ができた、当市では、運転士がガイドをすることは考えられないことを経験し感動しました。

佐渡島の観光シーズンは4月下旬から紅葉までで、佐渡島の気候は日本海に浮かぶ島で、暖流と寒流が交わる独特の地形を持ち、四季がはっきりして、冬は日本海が荒れなど、観光客はすくなくなる、当市も橋野鉄鉱山の冬場は、雪や凍結のため、12月から3月まで閉鎖され、佐渡島の金山と同じように冬の運営の課題がある。

世界遺産「佐渡島の金山」を観光に活用し、ホテルの従業員も接客の気遣いが良いなど、市民が誘客に繋げようと実践している姿が心に残った、また、世界遺産を良い状態で維持管理を図り、後生に引き継ぐための市の取組みを感じて視察を終わる。

報告者 令和クラブ 菊池 秀明